

# 帯広畜産大学同窓会報

第14号 平成19年8月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

## 第14号 発刊によせて

会 長  
大 石 和 也  
(昭和33総農)



帯広畜産大学同窓会報第14号の発刊にあたり、紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

平成17年10月以降、現在の役員構成で同窓会を運営しておりますが、ここ23年の間に大学も同窓会も大きな変化がありました。

特に、我が母校帯広畜産大学は平成16年4月に大学改革方針に基づき、「国立大学法人 帯広畜産大学」へと変わりました。新体制で再出発してから3ヶ年が経ちましたが、現在に至るまで大学内の学内はじめ諸先生、職員の方々の苦勞は並大抵なものではなかったと思います。

現在はようやく、大学の基本理念を「食の生産向上と安全確保」に据え、方法論としては教育、研究、国際連携、地域貢献などを模索し、具体的には次のようなことに絞られた。大学院独立専攻修士・博士課程の設立、次にポスト21世紀COEプログラムの促進、ユネスコの研究所との連携、JICAの短期派遣制度による学生の海外派遣などが具体化された。留学生の受け入れなど、国際社会との交流が広がったことは喜ばしいことであります。

次に、地域貢献については目を見張るものがあります。地域共同研究センターの設置をはじめ、各研究機関との連携研究によって現状の地域問題を取り上げていることは、地域における人材育成、問題解決、仕事の成功など、地域の大きな力となっております。

我が大学は国立大学法人のメリットを最大限に活用して改革を行ってきておりますが、まだやることは多いようであります。先日も学長と同窓会の懇談会の中で、学長は近未来的構想を述べられました。それは学部の再編と国際協力ユニットの新設、学科の壁を外した国際レベルの獣医学科への方向、別科の見直しなどなど未だ未だ改革が必要となることが示された。

しかし、我が母校は地方の小規模大学であり、大学の運営費交付金が5割以上削られると大変なことである。

同窓会も従来の「親睦と会員相互の連絡を密にする」

に加え、同窓生として母校の発展のため多少でも支援出来るよう努めたいものである。本年も各支部の拡充と発展を心から祈り、ご挨拶とさせていただきます。

## 大学の内部充実を

学 長  
鈴 木 直 義  
(昭和30年獣医)



帯広畜産大学同窓会報第12号(平成17年)の冒頭に、本学は平成16年4月から他の国立大学と同様[国立大学法人]として新たなスタートを切り、“食の生産性向上と安全確保”の実現に向けて教職員一丸となって取り組んでおります。本学は、我が国の生命科学研究領域における28のCOE拠点大学の一つとして、世界最高水準の研究推進と世界に通用する専門職業人の養成に寄与するため、畜産衛生学分野に特化した個性輝く専門店、「大学院重点化単科大学」としての研究教育推進体制の確立に日々努力しております、と報告しております。

また、同窓会報第13号(平成18年)には、本学独自の大学院畜産学研究科博士課程畜産衛生学専攻第一期生15名の入学が含まれていることを報告しております。本学は組織上では他大学と同様に自前の大学院博士課程を有する大学として高度人材育成のための高等教育に邁進できる条件が整ったわけであります。

研究面では、本学は1990年に日本の単科大学として全国初の「全国共同利用研究施設・原虫病研究センター」を創設し、その研究実績のお陰で2002年(平成14年)に「卓越した研究教育拠点・COE」に選定されております。研究グループはそれぞれの課題にそって研究に鋭意努力しておりますが、5年間の最終実績評価のうえに新規のCOE継続プログラム(グローバルCOE)が計画され、文部科学省では採択拠点数を半分以下にする方針だと噂されております。

本学は全学教職員、本学後援会および同窓生のご支援のお陰で、本学の教育・研究基盤の組織構築は(1)畜産学部、(2)大学院修士・博士課程、および(3)全国共同利用施設[原虫病研究センター]を有する大学院

大学を基盤とした本学独自の大学院重点化単科大学の特色を社会の内外に発信する骨組みが一応出来上がったと考えております。

本学の支柱である「大学院畜産衛生学専攻博士後期課程」の一期生は平成18年4月に入学し、食の安全確保に貢献する高度人材育成教育を開始しました。本学は大学院教育カリキュラムの実質化を大学院創設当初から確実に実行しております。文部科学省も本学の大学院博士課程教育方針には大変関心をもっており、平成18年度の文部科学省事業「魅力ある大学院教育イニシヤチブ」と「食の安全に関わる高度専門家育成プログラム」も2年事業として採択されております。

本年の「国際獣疫事務局(OIE)」総会において、海外法定家畜感染症(26疾病)および届出感染症(72疾病)のうち、原虫由来重要感染症の馬ピロプラズマ病(確定診断責任者：五十嵐郁男教授)、牛バベシア病(確定診断責任者：五十嵐郁男教授)および家畜トリパノソーム・スーラ病(確定診断責任者：井上昇准教授)に関して、本学原虫病研究センターが「OIE認定世界確定診断ラボ」に指定されました。「21世紀COE」採択拠点大学として5年間の政府援助による研究実績と成果が世界の専門家から認知されたものであり、原虫病研究センター全教職員と共に喜びたい朗報であります。

特色ある人材育成事業として、平成19年度文部科学省からJICA・ユネスコ連携融合事業「獣医農畜産分野における国際協力人材の育成」が認められております。本学大学院畜産衛生学博士課程在学学生および若手ポスドク研究生などがモンゴル或はフィリッピン国などから本学に長期間研究留学して帰国した研究者を研究アドバイザーとして外国の畜産事情を短期間(1か月程度)現地研修し種々の経験を会得させる新しい事業であります。連携融合事業の実現化のために、3月末の数日間モンゴルに行きモンゴル農業大学長以下の執行部と打ち合わせをしまりました。将来に亘ってモンゴル農業大学と帯広畜産大学が畜産衛生学に特化した密接な姉妹大学として連携を密にすることを学長間で約束をし、その記念として本学に関係ある者が中心になり帯広畜産大学同窓会モンゴル支部を設立するように現在手続きを行っているところです。本学同窓生がモンゴルに行く機会が生じた時に連絡を取り合えたら幸せだろう、との願いからです。

帯広畜産大学は本学後援会および同窓会と常に密接な連携関係を維持するべきであり、本学執行部が同窓会代表と毎年1-2回の会合をもって、「大学の現状および将来構想など」を説明する場を持ちたいと考え、4月25日(水曜)13:00-14:00に、第一回の懇談会を開催しました。大学の現状を充分説明し得たかは定かではありませんが、毎年1-2回、定期的に会合をもつことが大切と考えております。

本学の教員は種々の外部委託研究費獲得のために努力を払っており、成果も確実にあがっております。今

年度の科学技術振興調整費の選定結果が先日(5月19日)発表され、本学からも「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成」として平成19年から5年間の期間で採択されております。異色な外部資金獲得としては、マイクロソフト社会長として知られるビル・ゲイツ氏の資金援助一人の熱帯感染症(トリパノソーマ症、結核、マラリア)の診断法の開発・普及を目的とした研究財団(FIND:本部スイス)による受託研究契約を本学研究者(井上昇准教授)が締結したことであります。海外の有名な研究財団と研究受託するのは本学では初めてであり、研究・評価査定は非常に厳しいもので極めて高く評価されたものと推察できます。このように、色々な場で「日本の帯広畜産大学」が高く評価され、本学は本学独自の大学院博士課程を支柱として研究・教育の成果を基盤に畜産衛生に特化した高度人材育成に尽力し、世界に輝く「大学院重点化単科大学」として本年も一歩前進すべく努力中であります。

## 「大学の責任 その6」

理事・副学長(総務研究担当)  
長 澤 秀 行  
(昭和53獣医)



副学長を担当してから6年目になります。平成14年からの2年間は教育・学生担当副学長を拝命しました。従前の学部長職です。当時は、学生中心の大学づくりを目指すという方針で、いわゆる「廣中レポート」で指摘された方向性に沿って大学改革を推進しました。このレポートは平成12年6月に、当時、山口大学の学長だった廣中平祐氏を座長とする「大学における学生生活の充実に関する調査研究会」が文部省に答申したものです。社会環境の変化や大学進学率の上昇に伴い、多様な能力や適性を有する学生が入学している状況に対応するため、学生を中心に捉えた大学運営が必要であるという内容です。50年も前から指摘されていた、「学生の質的变化を踏まえて、学生の人格形成に対する大学の責任」が未だに果たされていないという内容も、このレポートの中で指摘されています。本学も、教育研究面での種々の取組はもちろん、学生相談窓口の整備充実、碧雲寮改修計画凍結解除、課外活動支援等々に取組ました。学生自治会長や碧雲寮の寮務委員長などは、かなり熱の入った議論をしました。平成16年、学生を対象に国立大学法人化の説明を行ったのを最後に、今度は総務・研究担当の理事・副学長になりました。

平成16年4月に全国の国立大学が法人化され、独自の中期目標・計画に沿って、毎年、年度計画を文部科学省へ提出し、年度終了後に報告書を提出した後、書

面審査とヒアリングを受けることとなります。今年の6月に提出したものは、本学が掲げた中期計画115項目に関する年度計画172項目について、それぞれの実施状況を報告し、教育の質の向上、研究の質の向上、地域及び国際社会連携、大学運営の4つの大きな事項について、本学の改善内容を自己評価しています。国の税金を使って運営されている大学に対して、法人評価委員会という第三者評価機関が、大学の責任が問うことになったわけです。今年で3回目を迎えますが、これまでは国から優等生としての高評価の通信簿をもらい、評価担当理事としては、ほっとしています。

概算要求も、法人化後に特別教育研究経費と呼ぶことになり、要求方法も大きく変わりましたが、順調に【研究推進】、【教育改革】、【連携融合】等の事業が採択され、施設整備についても総合研究棟Ⅰ号館改修、総合研究棟Ⅳ号館新営等の要求が採択されています。いずれも、大学の規模からすると異例とも言える採択率です。財務担当および施設担当理事としては、関係している事務局職員および先生方の努力に対して、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

最近、国立大学に対する運営費交付金の配分は、成果主義を導入した算定ルールで配分するべきとの意見が経済財政諮問会議等のいくつかの委員会では出されました。新聞報道でご存知の方も多いと思いますが、本学の場合は、文部科学省科学研究費の獲得率で算定した場合は、運営費交付金を含む大学運営費約50億円が25%ほど削減されることとなりますが、外部資金全体の獲得率で算定すると、逆に大幅に増額されることとなります。特別教育研究経費の採択率で算定した場合も、運営費交付金は増額されることとなります。どのような算定ルールになるのか、未だ不明ですが、国立大学法人評価委員会による評価結果が反映されるのは間違いないようです。

今年度は、平成19事業年度の報告書作成とともに、中期目標・計画期間の実績報告書を作成しなければいけません。いずれも来年6月に文部科学省の国立大学法人評価委員会に提出するものです。中期目標・計画の期間は6年間ですが、法人化後4年間の実績評価結果が平成22年度からの次期中期目標・計画及び運営費交付金に反映されることになりました。国立大学が明治維新や戦後の教育改革に匹敵する、法人化という大改革を実施した中で、大きな変更の一つが「事前審査から事後評価」です。法人評価委員会によるこの評価は、大学が責任を果たしているか否かの評価になります。国立大学の責任の中には、経済成長力や技術革新への学術貢献も必要だと思いますが、研究業績や研究費獲得実績などの研究成果に重点を置くと、「教員中心の大学」となる可能性が高くなってしまいます。最初に述べたように、大学は社会に貢献する人材の養成に当たるという役割を担っており、学生に高い付加価値を付けて卒業生あるいは修了生として社会に送り出すこと

が大学の社会的責任であり、「学生中心の大学」として常に改善して行く必要があると思います。実は、学生の視点に立って、どのように改善されているのかという点も、大学法人評価の重要なポイントになっています。

今後も、大学の責任を果たし、社会に高く評価される大学づくりを目指して日夜努力していきたいと思っています。同窓の皆様には、変わらぬご支援、引き続き貴重なご意見をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 本学の教育等に関する 取り組みについて

理事・副学長(教育・学生担当)

石橋 憲一  
(昭和42農化)



平成20年度から、学部の教育組織を再編整備することが、今年1月の役員会等で承認されました。その内容は、1) 獣医畜産融合の教育課程を確立するために、学科制を廃止し課程制(獣医学課程と畜産科学課程)とする、2) 獣医学教育の充実を図る、3) 畜産科学課程のユニットを学生や社会からの教育ニーズに対応するため、現行の9ユニット+畜産国際協力ユニットを6ユニット+畜産国際協力ユニットに再編するというものです。現在は、基盤教育、共通教育科目や各ユニットのカリキュラムの検討を行っている状況にあります。平成18年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に本学の取り組み「全学農畜産実習を通じた総合的導入教育」が採択され、新入生に農畜産の幅広い知識と体験を提供すると同時に、専門教育ユニットの自主的な選択などを支援しております。今年度からは豚の飼育やソーセージの製造実習など新たな内容についても検討しています。さらに、畜産衛生学専攻における「食の安全に関わる高度専門家育成プログラム」が昨年度の「魅力ある大学院教育(大学院GP)」に採択されたことを受け、食の安全に関わる豊富な知識と高度な技術に裏打ちされた人材の育成を目指し、教育研究体制の整備、充実を図っております。

昨年8月に、JICAとの青年海外協力隊チーム派遣「フィリピン酪農開発強化プロジェクト」に関する合意書に基づき、第3次として6名の学生をフィリピン政府のボランティアビザにより6週間派遣しました。さらに、学生の支援や同プロジェクトの指導のため、教員3名も派遣しております。また、畜産科学科の国際協力ユニットでは、国際協力の現場や地元の食品関連企業、牧場等を実際に見学し、体験学習を通じて国際人として活躍できるための素養の習得を目的として、4名の引率教員と3年生9名が昨年8月にタイで2週間「海外実習」を行いました。これからは、卒業・修了

生に限らず、本学の学生が国際社会などで活躍することも大いに期待されます。同窓の皆様には、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い致します。

## 「リポジトリ」

附属図書館長

長 澤 秀 行  
(昭和53獣医)

図書館長を拝命して4年になります。着任して1年間ほどで、大学図書館の役割や課題等を理解し、ようやく職務の重大性に気づき、学長に「図書館長は兼務ではなく、専任にすべきです」と申し上げたところ、即座に却下されました。「総合大学では、総務、研究、財務、施設、評価、といった重要事項にはそれぞれ専任の理事あるいは副学長が任命されていて、更に図書館長も兼務だなんて聞いたことはありません。ご再考を。」という言葉は飲み込んで、「わかりました。」と答えて現在に至っています。

当時の八重樫課長は学生中心の図書館づくりを実践していました。学術情報の整備はもとより、開館日の大幅増、自動貸し出し装置の導入、夜間、特に試験期間の開館時間の延長等、サービスの充実に努め、常に学生が利用し易い環境づくりを心掛けてきました。私も早速、図書館長室をグループ学習室に変えてしまいました。図書館長室の椅子に座る時間がないからです。今年度は、木挽課長を先頭に職員一同が引き続き、学生のための、利用者のための図書館運営を推進してくれています。

さて、標題の「リポジトリ」については、ご存知の方は少ないかもしれません。でも、大学関係者の間では「リポジトリ」の必要性を議論する段階ではなく、いかに整備を推進するかという段階です。従って、図書館長が「リポジトリって何？」という質問は口が裂けてもできません。学内の方で、もし、ご存知ない方がいれば、こっそり図書館のホームページを見てください。学術情報リポジトリは帯広畜産大学の知的財産を世界に発信するものです。

国立大学を取巻く情勢と同じく、図書館の役割も大きく変化しています。学術情報基盤としての図書館の役割は、従来と変わらないと思いますが、IT化の波は図書館にまともに押し寄せていますので、電子情報の整備も必須です。また、大学評価に対応するために、大学情報データベースは一括管理する必要があるのですが、図書館がその役割を担う必要が有るかもしれません。地域貢献の目的で情報検索ガイダンスも実施しています。一般市民にも解放しています。同窓の皆様も、本学に来られた際は、是非、図書館にお立ち寄り戴きたいと思います。

## 大学事務局のその後について

事務局長

湯 口 太多史



前号(H18年8月号)においては、事務組織の改編(2部8課体制)を行い、教育研究等の支援体制について充実させるべく事務職員一同奮闘する旨申し上げました。

また、その際に「評価業務」「監査業務」「広報業務」について機能強化することが課題であるとしていました。その後、教職員の皆様の理解を賜り、「評価業務」については評価実施体制を見直し、より一体的かつ機動的な実施体制の構築と計画実施促進に資するため、部局長等で構成されていた評価委員会を廃止し、教員と事務職員が一体となったスタッフ制による企画評価室を設置しました。これにより、年度計画の策定と評価の一体性が確保され、評価を踏まえて計画の策定に至るサイクルが確立されました。また、各部局の長等を対象とした、年度計画の進捗状況に係るヒアリング及び中間評価の実施がより実効性を持つこととなりました。

次に「監査業務」については、内部監査体制の強化並びに監事・監査法人等による監査への対応強化に資するため監査室を設け専門員の専任化を図るとともに、より一層の監査機能の強化のため、事務局内の組織から学長直轄の組織に改め権限と責任を明確にいたしました。

最後に、「広報業務」についてであります。大学情報の積極的な公開・提供を行い本学の理解を賜り存在感を高めるのが最大の目標であると認識いたしております。

これまで「広報室」を設置し、既存のホームページ・広報誌等の点検を行い、より効率的・効果的な広報活動の充実を図って参りましたが、大学と社会の間のインターフェイス機能の充実や、情報公開、調査統計資料の作成、評価資料作成のためのデータベースの構築を図りつつあるところであります。

昨今、国立大学に対する風当たりは、市場原理や規制緩和、経済・財政面での改革重視により本来の教育改革は二の次として軽視されつつあるように感じます。これまでも、本学においては厳しい財政の抑制政策を受け大学運営の見直し、効率的な業務の改善・合理化などを行って参りましたが、国からの交付金のみならず外部資金の確保等に尽力されている教職員の踏ん張りや皆様の温かいご支援により幸いにも、学生サービスの低下にならないよう今日に至っているのが現状かと思われまふ。本学としても、より一層地域社会と連携を深めて十勝の地にてしっかりとした基盤を整備することが大切かと考えまふ。

毎年、皆様の後輩となる新入生の受け入れ(H19/4月入学 370人)、社会への送り出し(H19/3月卒業・修了生 290人)を行ってきていますが、本学の存在感を高めるためにも益々皆様との強い絆が必要ではないかと痛感いたしております。

昨年は各同窓会支部の集まりに学長に同行し参加させていただきました。6月に関東支部同窓会、8月に岡山県支部同窓会、11月に九州支部同窓会の参加でしたが、大学の近況報告を学長から話題提供するとともに同窓生の皆様の大学への想い出・ご意見などを賜りながら、歌あり踊りありで最後は帯広畜産大学逍遥歌で締めくり大変有意義なひとときを過ごさせていただきました。その節は、大変お世話になりましたこと本誌を借りましてお礼申し上げます。今後とも機会あれば、是非皆様と親しく接し近況を語らい、種々ご意見・ご要望を賜りたく願っております。

また、本学の情報発信を充実してまいりますので同窓の皆様におかれましても、機会あるごとに本学のPRを多方面にいただければ幸いです。

## 食の安心

獣医学科長

西村 昌数

(昭和42獣医)



栄養学は野菜を大事にしろと言う。もちろん食材の栄養学的価値観に照してだ。一方で、生化学は捕食者の組成情報に近いものを食すことを勧める。まさか植生が哺乳動物に近縁であろう筈はない。尤も、味気ないものを食すに至っては「出汁」の意義を知らぬ者もいるまい。旨さである。元来食は地産地消を本分とした。とてとても、空中を散歩してくる鮪など、山間のキノコやタケノコで暮らす樵たちが喰ろうた筈もあるまい。したがって、同時に旨さを主張すれば食材と口との語らいを執成す工夫は「調理」である。旨さは主にアミノ酸の伝える食材の文化であり、一部は核酸の亜種にも委ねられる。但し、それらは塩あつての意義であるが、それは別の機会に論じることとする。然様な工夫を江戸の食の変遷に見つけることができる。まさしくバーチャル・リアリティだ。此度は一つ、然様な過去の現実に迫りつつ、ヒマラヤを黄金と化すとも収まらじとお釈迦様を嘆かせた人間の欲と重ね合わせた「食の安心」を考察してみたい。

「江戸っ子だってねエ、寿司喰いねエ」と聞こえてきそうな舞台が葛飾柴又にある。今に残る渡し舟だ。股旅姿の森の石松が乗り込んでいたら、隣の綺麗所へ話しかけたであらましような。当時の寿司はちょっと違う。

冷蔵庫のない時代のこと故、江戸前をお美しく食べる粋は何方にも譲れない価値観を主張する。しかし、江戸前の活を保存する工夫が安心を凌駕できるか。できたのだ。それが「なれ鮪」だ。主食の米を炊いて、今で言うところの澱粉の $\alpha$ 化だが、これで活き魚を包み込み乳酸醗酵させ、腐れから守ったのである。おまけにこれが旨い。醗酵が「旨く」するのである。このことを換言すれば、寿司はもともと食材の保存法として勃興したものなのだ。それが「旨い」ときたもんだ。江戸っ子の喜ぶまいことか。

斯様な情報は上方へも伝わるわな。大阪の方も頑張ったん。それが押し寿司だ。で、これも江戸へ伝わった。けれど気の短い江戸っ子には、片手上げるくらいしか歓迎されやらなかった。なぜか。飯の上に酢締めした活を載せて押し出し、これを笹の葉で包んで熟成させるインキュベーションの暇を持って余した。此処で両国の寿司舞台に登場したのが華屋與兵衛の「與兵衛寿司」だ。文政七(1824)年のことだから、マ、江戸も遅くなってのこと。時は第120代の仁孝天皇による形式治世で実質的には第11代徳川將軍家斉の時代のこと。その後天保の改革が贅を謹めと下るのだから、なるほど庶民が欲を主張していた時代と分かる。握ってすぐに食べられる寿司、そう、活を酢締めにするのではなく、飯を酢で締めてネタの活を上に乗せた。けど、この「活」の意味は今とは違う。「活」だった穴子、蛤、白魚、車海老などは煮たり茹でたりする。鮪やコハダは酢で締める。イカは湯通しで、鮪は醤油漬け。今高級ネタの鮪は、当時は下魚とされ、寿司屋台でしか取り扱われなかったという。何はともあれ、当時の「安心」は加熱(物理)や酢塩(化学)のタマモノだったわけ。

ところで、寿司を一貫二貫と称する理由をご存知でお食べになっておられるかな。この一貫は寿司の大きさを計っている。当時は一文銭をヒモに通して重さ一貫分として活用していた。その大きさが寿司一貫分として働いた。だから寿司一つの大きさはかなり大きかった。そのことが一貫分の寿司を等分に切り分けて提供する風習を招き、今にして二貫一皿に名残っているというわけ。

一方、寿司にかかせないのが「ガリ」ですな。これも「安心」に一役買っていました。もともと「何」が目的で寿司にガリが寄せていたと思います？あれは片思いではありません。歴とした意義があった。当時の寿司屋にはおしぼりなんてなかった。ないと困るのが手に掴んだ時に残る飯粒だ。いちいち指を舐めるのは粋が許さない。ところがガリをちょっと摘んで、指の表面を濡らして寿司を掴むと飯粒がつかない。ついでにネタ渡りする時に、ちょっと摘んでガリを口に放り込むと味変わりが許せる。ところがガリには静菌作用や殺菌作用もあったことで、工夫が智恵に転じていたと言う「安心」を生んだ。ところで、ガリ摘み、鮪飯掴んだ手は最後にどうやって拭いたんでしょう。実は、店から出る時、

暖簾で拭いたんだとか。不衛生と攻めてはいけない。お客様の手拭いとされゴワゴワになった暖簾こそ、寿司屋繁盛の勳章であったわけ。

尚、最後に一言。喰うことは栄養学や生化学的評価を考慮して果たしているのじゃない。棲んでいる所の気候風土が育ててくれる生き物を、喰えるように調理して、喰える時に、喰えるだけ、喰ろうているんだな。痛い目に遭いながら、それも我慢して。それが旬の愉しみ。過去には、なんと400万年もそれを繰り返してきたんだって。ご先祖様の「安心」で、凄いな。

## 畜産科学科の現況

畜産科学科長

土谷 富士夫



大学は平成16年4月から法人化され、国立大学法人に移行されて3年が過ぎました。本学も独自に個性と特色のある研究教育を行うため、残り3年間の中期目標に基づき、教育環境の整備、研究教育の向上、地域貢献、国際交流などに取り組んでいます。また本年度は講義棟、総合研究棟1号館(旧学部棟)改装の第4期工事などが予定されており、構内の各施設への案内板や正面玄関の芝生の設置などの環境整備も行われています。3期工事も終わり、旧学部棟の正面3階に時計が付いて学園らしくなりました。そして学務課が事務棟から移動し学生のサービスの向上を目指しています。昔の面影が薄れますが同窓生各位が来学された折に、ご満足いただけるような学内環境に整備されつつあります。

平成14年度から畜産科学系3学科を畜産科学科に統合し、教員は獣医学科と畜産科学科の各大講座に席をおき、学生を教育する体制になりました。1・2年生の学生は少人数クラス制で全学農畜産実習などを体験し、共通教育として獣医農畜産の各分野の幅広い基礎知識を修得します。3年生から獣医学ユニットと、「生命」、「食料」、「環境」などの9つの教育ユニットと畜産国際協力サブユニットに所属して専門的な教育を受け、希望する先生のもとで卒論研究の指導を受けます。JICA日本本部と協定を結びましたので、畜産国際協力サブユニットは国際的な分野で活躍できる人材育成を重視しています。改革再編の波が押し寄せ、平成20年に向けて再び教育ユニット改正が始まり、9ユニットが5ユニットに統合され獣医学と畜産学を融合した新分野が出現する予定です。

昨年度は大学院畜産科学科に畜産衛生学専攻の博士課程が設置されました。岐阜連合獣医学研究科、岩手連合農学研究科と3つの博士課程が存在することにな

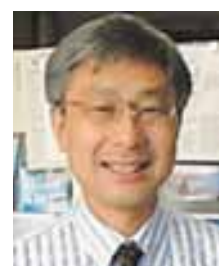
りました。毎年数人の退職する教員や転出する教員などで本学教員の流動化も多くなっています。本年から「助教授」が「准教授」に、「助手」が「助教」に名称の変更が全国的に行われました。新しい言葉に馴れるのには多少戸惑いがあると思われます。就職戦線は求人数が増加傾向にあり、各地の産業等で採用されることを期待しておりますので、ご声援のほどお願いいたします。団塊の世代の大量退職の期もあって、会社等を変更あるいは第二の人生を見つけた同窓生各位は是非ご一報をください。金国各地で活躍して同窓生諸君は熱い思いをお寄せいただき、ホ学のさらなる発展と環境や食料問題に対応でき、国際社会に貢献できる人材の育成をご支援いただければ幸いです。

## 大学院博士後期課程 畜産衛生学専攻の 現在の活動状況

畜産衛生学専攻長

宮本 明夫

(昭和57家畜生産)



帯広畜産大学同窓生の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。本学独自の大学院博士課程が平成16年度に前期課程(修士課程)としてスタートし、2年間を経て平成18年度から、いよいよ後期課程(博士課程)のプログラムが進んでいます。昨年の近況方向でご報告させていただいたように、畜産衛生学専攻の教育プログラムは平成18年度に文科省の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」プログラムに採択され、その「てこ入れ」をもって大学院生たちは国際舞台での研究成果の発表、海外でのインターンシップ、食の安全の確保のための科学的システムの研修、自らが企画・運営に参画する社会向けのワークショップ開催など、当初の期待を大きく上回るアクティブさでおこなっています。

上述の活動は、全て大学院プログラムに正式に組み込まれており、単位取得にも関係します。平成18年度入学が最初の博士課程の大学院生ですから、本専攻博士後期課程は現在、ようやく1年数ヶ月を経たにすぎません。今まさに、博士課程2年生の大学院生たちが世界中に飛び、インターンシップを中心に食の安全確保にかかわる動物医科学、食品衛生学、そして環境衛生学関連の国際舞台での活動が進んでいます。運営していて嬉しい驚きなのですが、大学院生たちのエネルギー、熱意と努力は目を見張るものがあります。「活躍の場を与えられれば、最大の熱意と努力で人は大きな体験を重ね、育つ」ということが事実であることを実感しています。

このような数々の畜産衛生学専攻の教育研究活動は、専攻スタッフである原虫研、大動物特殊疾病研、畜産

系の14名の教員に加え、全学的な獣医・畜産系教員、職員、そして国内外の関係者による強力なサポートの上に成り立っています。「魅力ある大学院教育イニシアティブ」プログラムは平成19年度で終了しますが、大学院教育を明確な目標と方向性をもって、それらの実現のための人材育成プログラムを構築し、それを推進するためのある規模の予算を投入して、実質のある運営を継続すれば、目的とする優秀で活動的な人材は必ず育ってゆくことに疑いはないと感じています。そのためには、もちろん良い人材を育てたい、若い大学院生たちと一緒に進みたいという教員の熱意と努力が動力です。

本学では、今後、畜産衛生学専攻のノウハウを参考にしながら全学の大学院プログラムを新たに構築し、帯広畜産大学に求められる関連分野で活躍できる高度な人材育成を、さらに充実させてゆくことが重要だと感じています。同窓生の皆様方は、様々な分野にご職業をお持ちのことと思いますが、是非、帯広畜産大学へ期待する具体的なお意見やご批判をいただければ、たいへん幸いです。どうぞ、母校をより社会に貢献してゆける大学に充実してゆけるよう、皆様のお力をお貸しいただきますよう、お願いいたします。

最後になりますが、皆様方のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 別科の近況と発展に向けて

別科主任  
鈴木 三 義  
(昭和48酪農)

別科修了者は、昨年3月で大台の千人を超え、今年の46期修了生をもって同窓生総数が1,036名となりました。これまでも途中でドロップアウトしたり、3年以上かかって修了した人は若干おりましたが、今回の修了者は、入学時に28名で修了時には19名と別科開学以来の低い修了率となってしまったことは反省すべき点です。今年度の入学者は25名で、定員には若干およばなかったのですが、応募者が少なくなった近頃の中では比較的健闘した年でした。ただし、入学者が増えたからと言って、46期と同じような結果に成らないように関係者の努力と協力をお願いしなければなりません。別科の入試の特徴として挙げられる事は受験者全員に面接を行っていることですが、はじめて別科入試を経験し、面接の重要性を再確認した次第です。本科でも、3年次編入や推薦入試では面接試験を課しているのですが、面接官の判定の差異が大きく、また、直接責任が問われることもないこともあって、その重要性には疑問をもたざるを得ません。この点、別科はベテランの専任教員がいて、また、2年後には直接結果が

見えてくるので、自ずと本科のそれとは差があります。

昨年の4月から別科を担当することになり、ホームページ(<http://www.bekka.jp/>)を立ち上げ、修了生の活躍振りを載せております。その一部を紹介しますと、政治に道議、市議、町議あるいは村議として活躍されている同窓生、各市町村の副町長、組合長や農協や普及所の幹部で活躍されている人、当然、最も多いのが農業における地域のリーダーとなって活躍されている人々です。また、親子2代で別科の修了生に成っておられる方もかなりの数にのぼっていることも分かりました。これら作業を通して、改めて別科の農業への貢献を認識した次第です。昨年のこの号でも述べたように、別科の位置づけには多に疑問を持ち、全学を挙げての取り組みの必要性をホームページ等でアピールしておりますが(<http://web.ikushu.org/puki/pukiwiki.php>の別科将来構想)、私の力不足は如何ともし難く、このことを少しでも前進させるためには、別科修了生ならびに畜大同窓生の多くの方に賛同とご理解、ご支援を切にお願いするところであります。最後に、同窓生皆様の益々の発展と活躍を祈願する次第であります。

原虫病研究センター：  
国際獣疫事務局(OIE)  
レファレンスラボラトリーの認定

原虫病研究センター長  
五十嵐 郁 男  
(昭和52獣医)



瞬く間に1年が過ぎました。原虫病研究センターの1年間の活動をご紹介します。原虫病研究センターを中核とした本学の21世紀COEプログラム「動物性蛋白質資源の生産向上と食の安全確保一特に原虫病研究を中心として」は平成14年度に開始され、平成18年度で終了しました。この間、本学の拠点形成活動が多方面から評価され、本プログラムに参画した教員が中心となった本学独自の大学院博士課程(畜産学研究科畜産衛生学専攻)が設置され、原虫病研究センターの教員も博士課程の学生を多く受け入れていました。更に、原虫病研究センターは馬ピロプラズマ病、ウシバベシア病、スーラ(Trypanosoma evansi)の国際獣疫事務局(OIE)のレファレンスラボラトリーとして認定されました。原虫病研究センターの研究活動は国際的レベルに達していると自負しておりましたが、この度のレファレンスラボラトリーの認証は、更に国際的認知を高めるものであります。今後原虫病研究センターが動物ならびに人獣共通原虫病研究の国際的な研究拠点として、OIEコラボレーティングセンターの認証を目指したいと考えています。また、開発途上国の原

虫病研究を主体に食の安全確保に関連した人材育成を目的とした「食の安全確保のための人畜共通感染症対策コース」の第1回目が18年9月に終了し、引き続き第2回目が11月にスタートしています。更に昨年9月に、第15回日独原虫病シンポジウムが原虫病研究センターで開催されました。ドイツはもちろん、東南アジアからも若手の研究者を招待して、活発な研究成果の発表と討論及び親睦が図られました。以上のように、原虫病研究センターはこの1年間、大学当局はもちろん多方面からの支援を受けながら、研究組織の整備、教育研究活動の活性化に努めてきました。19年度は、本学の中期目標、中期計画の評価作業をスタートしなければなりません。原虫病研究センターも全国共同利用施設としてその成果が問われる事になります。今後とも、同窓生の皆様より一層のご理解とご支援をお願いします。

## 地域共同研究センター

地域共同研究センター長  
関川三男  
(昭和51酪農)



地域共同研究センターは、平成18年に創立10周年の節目を迎え、7月には約300名の方々の参加を得、記念行事として式典、フォーラム、パネルディスカッション、パネル展示および祝賀交流会を執り行いました。基調講演や直接にご教授頂いたことなどを、改めて振り返ってみますと、産学官連携は、連携すること自体が目的ではなく、手段であるとの認識が醸成されつつあることを実感します。それぞれの基盤強化と特徴を生かした補完関係を構築し、互いに高次の目標・目的に向かって進むことが重要であるとの認識です。大学は、学生と教職員によって、日々、教育研究活動が展開されていますが、教育と研究とが一体化する所に特徴があり、実社会との接点が重要な教育研究の場としても考えられるために、益々、産学官連携は重要となります。

近年、実社会の急激な変化に伴い、大学は、社会と連携して、科学・技術や地域文化を発展・向上させることにも主体的に関わることが求められています。また、具体的な諸問題解決のために、社会の各方面から多様な期待も大学に寄せられています。このような状況の中で、国の第3期科学技術基本計画では「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」および「人材育成と競争的環境の重視：モノから人へ、機関における個人の重視」が基本姿勢として掲げられています。この計画書は、第1章の理念から始まり第5章で完結

しますが、いくつかのキーワードが繰り返し登場し、この中で「イノベーション」と「人材育成」が最も重要と思われる。イノベーションとは「科学的発見や技術的発明を洞察力と融合し発展させ、新たな社会的価値や経済的価値を生み出す革新」とされています。イノベーションの推進には、先ず創造的で実践力のある人材が必要です。さらに産学官連携による地域や産業界の活性化、すなわち自立的持続的社会的構築には、高い倫理意識と良好な対人関係の構築：「信頼と絆」に裏打ちされた明るく行動力のある人材が必須です。これらの人材を育成する場としての大学の価値を改めて認識することが大切であり、今年度、幸いに文部科学省科学技術振興調整費：地域再生人材創出拠点の形成プログラム：「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成」が採択され、この秋には社会人の方々を対象とした人材育成事業が開始されます。これまでに大学の責務として求められた教育(人材育成)と研究(知の創造)に加え、これからは産学官連携を基盤とした社会貢献として、社会人の方々の総合的なブラッシュアップに資する教育活動も大きな柱となることを再認識し、従来の教育・研究の質的向上にも寄与し得る連携活動の強化に努めてまいります。

現在、地域共同研究センターは、学内外のご支援によりセンター長(関川)、専任教授(渡邊)、産学官コーディネータ(田中)、NEDOフェロー(藤倉)、知財アドバイザー(橋野)、十勝財団支援職員(飛川)、事務職員(千枝、木幡、高山)の体制で、「おもてなし」の心を旨として学内外・地域社会に開かれた窓口として活動する所存であります。

同窓の皆様におかれましては、共同研究や醸金のご相談を初めとして同期会の企画など何か母校にご用向きの際には、どうぞ地域共同研究センターへ気軽にお申し付け下さい。

## 畜産フィールド科学センター長に 就任しての感想

畜産フィールド科学センター長  
本江昭夫  
(昭和150草地院)

本年の4月1日付けをもって、本学の畜産フィールド科学センター長に就任しました。そこで、簡単ではありますが、ご挨拶の一文を書かせていただくことになりました。

本学の畜産フィールド科学センター(旧、付属農場)は138ヘクタールの土地を保有しており、現在、110ヘクタールの土地を利用しています。牧草やトウモロコシを栽培するか放牧地となっています。約200頭のウシを所有し、1年間で70万トンの生乳を生産していま



す。これら自家生産の牛乳から、当センターではパック詰め牛乳を生産・販売しています。1年間に生産・販売している個数は、高温殺菌の1リットルパックが15万個、低温殺菌の500ミリリットルパックが1万6千個となっています。現在は本学と帯広市の生協店舗において販売しています。これらの牛乳パックを卒業生の皆さんにも購入していただけるよう、目下、方策を検討しているところです。クール宅急便を利用して、卒業生の皆さんにお届けできる日がくるかもしれません。その節はご協力の程よろしくお願いたします。

当センターは、教育と研究に活用することを第一の目的として設立されました。しかし、時代は大きく変わろうとしています。地球温暖化を抑制するための二酸化炭素の排出削減に関連する分野においても、当センターは地域貢献するよう要請される時代になってきました。そこで、新しい分野での民間企業との共同研究に取り組んでいます。その例をあげると、ナタネ油をバイオ燃料として利用するプロジェクト、家畜糞尿を醗酵させてバイオガスを取り出すプロジェクト、乳製品工場からの排水を浄化するプロジェクトなどです。これからのセンターはこのような民間企業との共同研究に積極的に取り組んでいく必要があります。そのためには、卒業生の皆さんのお力添えが必要です。貴重な情報の提供をお待ちしています。

## 附属家畜病院

病院長

宮原和郎

(昭和53獣医)



平成19年度からは獣医学科6年生を対象とした総合臨床学Ⅲ・同実習(いわゆる小動物のポリクリ)が家畜病院で開講されています。産業動物のポリクリは総合臨床学Ⅰ・同実習および総合臨床学Ⅱ・同実習として獣医学科5年生を対象として平成18年度から実施されていましたが、小動物については実施効果、施設・設備機器、人員などの問題から漸く本年度から実施されることになりました。ポリクリとは「診療参加型臨床実習」のことで語源はドイツ語の「Poliklinik」と言われ、英語では「Clinical Cleakship」を略して「クリクラ」とも言われています。診療参加型臨床実習といっても見学と採取サンプルについて病院スタッフと共に検査を行うことが主体ですが、飼い主として来院される一般市民の方の目にふれると言うことで、本年度からは家畜病院外来診療時間中に何らかの形で診療参加する学生に対しては診療着としてケーシー型白衣上下の着用と写真入り名札の明示を義務づけています。このため

に病院内には白い診療着の学生が溢れています(写真1)。また、入門獣医学実習として家畜病院で実習を受ける1年生に対しても同様に義務づけていることから、形からの導入ではありますが例年以上に1年生は目を輝かせているように思われます。施設設備としては小動物のポリクリの開講に合わせて、検査機器の複数台化、採血モデル機器の整備と共に、従来の南口玄関を閉鎖してある程度の学生が手術エリアに入ることができるように手術室を含めた改修を行いました(写真2)。本学家畜病院は「獣医学の研究及び教授の目的をもって家畜の診療を行う」獣医教育病院であり、小動物診療においては今後とも地域の方々の大事な家族である動物に対して最善の治療を提供すると共に、二次診療施設として高度獣医療を提供できる施設を目指すべく努力しています。全国の獣医系大学においても臨床教育の充実を目的として動物診療施設の整備が急ピッチで実施されており、当院においても学内で最も老朽化した施設として施設整備のための概算要求中ですが、老朽化＝改築整備の時代は過去のものとなり、いずれの大学附属動物病院においても自助努力が求められる時代となっています。本学においても自助努力が求められることは必至と思われ、今後、後援会の皆様のご支援を賜らなければならないこともあるかと存じますが、その折にはご理解の上、何卒宜しくお願申し上げます。



(写真1)



(写真2)

## 大動物特殊疾病研究センターの 5年を振り返って

大動物特殊疾病研究センター長  
牧野 壮一  
(昭和54獣医)



近年、O-157や鳥インフルエンザ、BSE問題など、食の安全確保が大きな話題となっていますが、帯広畜産大学は日本社会における健康動植物生産から食品までの「食の安全管理」に対する職業専門人養成と衛生管理への専門に特化された応用開発研究の成果による社会貢献を目指して大学改革を推進しています。この趣旨のもと、国際貢献も視野に入れた畜産・食品衛生に関する教育研究と技術支援の中核を成す組織として、畜産学部と原虫病研究センターの獣医系教員を中心に2002年8月に設置され、その後、2003年には教官ポストの純増が文部科学省より認められ、現在7名で構成されています。その後、2005年4月の大学の法人化に伴い、学内共同研究施設として部局化されました。2006年4月にはI V号館が新設され、その一角に原虫病研究センターと同居の形で本センターが移りました。それまでのプレハブ住まいを考えれば、何とか落ち着いて研究生活ができると期待しています。小さいながらもBSL2/3実験室、動物感染実験室、細胞培養や遺伝子組み換え実験室、セミナー室などを備え、その他ハード面でも一通りの実験環境は整ってきました。設立後5年たち、準備期間がほぼ終わり、次の5年にどこまで活発な研究成果をあげることができるか、今後の大きな課題とセンター員全員が思っています。

本センターは研究センターですが、積極的に獣医学科や畜産学科の学部教育を行っており、さらに畜産衛生学専攻の修士や博士課程の大学院教育も行っています。大学院教育の初めての試みとして、獣医学科の武土教授と食品産業協会、地元の食品会社の協力を得て、一週間の食品衛生実習を集中で行っています。微生物を初めて扱う学生、日本語の不自由な留学生、微生物の専門家、企業の研修生が参加する、なかなかユニークな実習です。現場に必要な技術や知識を集中的に実習し、即食品衛生現場でも通用できるようにとカリキュラムを考えています。

教育研究と共にセンターの役割として、社会貢献にも力を入れています。例えば、学内外で原因不明の牛を学内の獣医臨床教育に生かす目的で、病理解剖前にBSE検査を行っています。BSEの疫学研究には必須の検査で、24ヶ月令以上の廃用牛には義務化されています。BSEの原因を探るためにセンターが取り組んでいる問題の一つです。

本センターでは安心安全な社会構築を目指し、危険病原体の蔓延防止、食の安全確保、健康な家畜生産維

持への技術向上、などを目的として教育研究を行っています。また外国からの学生や研究生も多く、国際交流の場としての機能も果たしていると思っています。ほとんど全国的には名前の知られていない組織ではありますが、教官と研究員、そして大学院生や学部生が家畜衛生・食品衛生分野の発展のために日々努力しています。基礎、応用そして臨床獣医学の融合した組織として発展したいと思っていますので、同窓生の方々にも暖かいご支援宜しくお願い致します。

## 保健管理センターの この一年

保健管理センター所長  
中村 公英



同窓会の皆様に平成18年度の保健管理センターの利用状況をご報告いたします。平成18年度の当センター利用者は、延べ職員342人、学生1,187人(診療1,135人、精神相談52人)でした。過去3年間と比較しますと、平成15年度、職員463人、学生1,590人(診療1,199人、精神相談等391人)、平成16年度、職員478人、学生1,282人(診療1,148人、精神相談等134人)、平成17年度、職員312人、学生1,157人(診療1,045人、精神相談等112人)となっております。これを見ますと昨年度は職員、学生ともセンター利用者は前年に比べやや増加しています。学生については、精神相談が大幅に減少し、その代わり一般診療が増加しました。この理由は、昨年5月にB型インフルエンザが、今年2月にA型インフルエンザが流行し、また、昨年11月~12月にかけてはノロウイルスによる胃腸炎に罹患する学生が多かったためと考えられます。平成18年度からインフルエンザの迅速キットを購入し、当センター内においてもインフルエンザA、B型ともに短時間で正確な診断が可能となりました。一方、職員の利用も前年に比べ30人程増加しました。これにはインフルエンザ罹患者のほか、職員健診やドックで異常を指摘され治療を希望してセンターを受診する方も少しずつ増えていることがあげられます。昨年もお知らせしましたように平成17年度から職員は保険診療(一部有料)となりましたが、高血圧症や痛風などの慢性疾患の方には再診料の負担をなるべくかけないよう長期投薬を行っております。

保健管理センターの業務としては診療のほか、疾病の予防対策も大切であると考えております。昨年度はインフルエンザ、ノロウイルス患者発生時には学内の安全衛生委員会と連携し、予防対策の周知を行いました。また、今年度は5月18日付けで全国的な麻疹流行に対する予防対策の学内向けの啓発を行ないました。

今後も学内組織と連携し、学生・教職員の健康維持、向上に努めたいと考えています。今年度も宜しくお願ひいたします。



わが大学の充実振り同窓会員も、  
母校に注目を!!

同窓十勝会会長

太 田 助  
(昭和32総農)

1,920人の帯広・十勝の同窓生の皆様(全国11,689人の同窓生=平成18年11月発行同窓会名簿)お元気ですか。

畜大は、平成16年(2004)4月からは『国立大学法人帯広畜産大学』としてスタートを切り、第三者による高い評価を得る大学運営をしておられ、国立の単科大学としては生命科学分野で卓越した研究教育拠点として輝かしい活躍をしております。

同窓十勝会は、2年に一度の総会が今年10月13日(土曜日)農協連ビルで開催を予定しております。

これまで何回かの三役会議、役員会議、本部同窓会長を招いての三役会議などを行なっており、その中で、大学・草地畜産専修(別科)に対するホームページの内容が事務局に寄せられ、役員の皆様に配布させていただきました。

別に、これを見たと言う会員からの意見も私に参りました。私自身も何年も前から心していたこと」でもありましたので、かなりの会員・役員に無作為に発送して、ご意見ご示唆を頂きました。

それらを包括して、三役・役員会での意見を伺いましたが、『先ず本部長と連絡し、学長の意見を伺うこと』が第一優先。次に『本部長を通じて同窓十勝会の情報として伝えること』『情報具申の上、大学の考えをもとに推進にあたること』と言うことが、協議されました。

12月9日の同窓会役員会において、お許しを得て、“同窓十勝会内部情報”として、この件に対する会員の意見を述べさせて頂きました。

4月25日に学長・副学長2名・大学事務局長と、同窓会長・同窓会事務局長・庶務担当者・十勝会の会長・筆頭副会長・相談役副会長・幹事長が出席して『第一回、学長・同窓会、懇談会』を行いました。

『学長総括』と言う資料で、学長から総合的な面で、大学に寄せられている期待と、将来の畜産大学の進むべき方向を考えて『新しくハイレベル専門技術分野で国際的活動に参画できる人材育成、社会貢献の面でも人間的教育力と広い国際感覚を持った人材育成のため』4年制新学部(ユニット)と言う方向で、国とすりあわせをし努力をしているところであること、が述べられました。

次いで、副学長2人から懇談形式での【いま大学として取り組んでいること、今後取り組もうとしていること、等々】お話がありました。

同窓会としての意見も懇談という形で出席者からお話していただきました。

私は、この懇談の中で、次のことを強く感じました。

- ① 本学の基本理念であり、更に直近の社会的要請となっている『食の生産性向上と安全確保の重要性』
- ② 獣医・畜産分野では世界の最高水準の研究者人材を留学生も含めて養成すること。
- ③ 大学院畜産学研究科畜産衛生学専攻「博士課程」が開設されたことによって世界に冠たる『畜産衛生学に特化した個性輝く大学院となるために重点化した「単科大学」』の充実。
- ④ 地域社会或いは関係企業が求める数多くの具体的課題を解決に導く共同研究の取り組み。
- ⑤ 高校が大学に求め、大学が高校に期待する地域貢献度の高い学力レベルを上げるために双方の努力を重ねること。

ここで言う①と⑤は特に、草地畜産専修(別科)の現在をそっくりそのまま4年制に移行することはできないまでも、新学部(ユニット)の中に、別科に期待されている国際的に生き抜く農業人・産業人としての人材養成が出来ることを考えておられ、これを生かしていくことの強い意志を感じました。

学長も副学長2名・事務局長様方が、同じ心でおられることが、その表情・態度から強いオーラとなって伝わってきました。そして、同窓生のお話も伺いその上で“新しい取り組みに努力していますから、別科卒・別科在学・本科卒の同窓生の皆様、並びに関係者の皆様、共に頑張りましょう”と、呼び掛けられていることを強く感じました。皆様に、これをお伝えし、大学に対するあらゆる角度からのご声援・ご後援を、お願いしたいと思います。

## 帯畜大同窓会各位

釧路支部会副会長

杉 山 智  
(昭和44獣医)

初めて会報に寄稿致します。帯広の隣、釧路支部の杉山智(獣医学科44年卒)です。

齢60歳を過ぎましたが年金受給の絡みで定年延長制度が出来て、あと2年余現役を続ける予定です。そうなるとフィールドでの仕事が40年余に及ぶことになり、何もこれと言って取り柄のない私ですが“無事これ名馬”の端くれに入れるのかと密かに自分を褒めています。

さて、60歳を過ぎた者の特権でお許し願ひ少しばかり言いたいことを言わせて貰います。

先ず、最近の獣医学科関係ですが、女子学生の大幅増加、産業動物志向の学生の減少、私大(酪農大)席卷の三つが私には気に掛かります。北海道、道東の農業、畜産、とりわけ草地型酪農を強力にサポートする役割を本学卒業生は担っているものと考えている私としては大いに不満が募ります。

現行の内申点重視の教育制度では、塾通いをしたお利口さんばかりが大学進学に有利で、やんちゃな乱暴者、しかし、大志、大望、バイタリティーを持った若者、特に男子学生が不利になるように思います。それから、日本で唯一の草地学課程を持つ大学として牛の粗飼料の基本となる牧草づくり(土壌管理、草地管理、施肥技術、収納管理、サイレージ調整技術、放牧技術を含む)の先達としての役割をもっともっと果たしてほしい。アメリカナイズされた穀物中心の牛の命を踏み台にした酪農ではなく、草中心の長命、連産、低楽農を実現するために。北海道酪農は当初のデンマークモデルからいつの間にかアメリカモデルに変わってしまいましたが穀物価格高騰の今こそ草の時代です。健闘を期待します。

それともう一点、子弟教育に非常にお金がかかる時代ですが、貧乏農家の子として生まれ育ち、安い国立大学の授業料と碧雲寮の費用、特別奨学金のお陰で大学に入学、卒業出来た私としては、親の経済力に関わらず能力と気力のあるものが大学教育を受けられる教育制度と経済的方策を是非残しておいて欲しいものと切に願っています。そのための協力は惜しまないつもりです。

## 関東同窓会の近況

関東同窓会会長

田中正三  
(昭和31獣医)



恒例の平成19年度総会及び懇親会は、6月16日東京銀座ライオン7丁目店で、母校から鈴木学長と湯口事務局長のご臨席を頂き、会員60名の参加を得て開催しました。

なかで今年は遠方の方や高齢の方などに配慮して開催時間を15時からとした事もあって新しい顔ぶれも10数名加わって参加者一同大いに盛り上がった中で楽しんでいただけたように思います。

総会は、加藤幹事長の司会進行で、会長挨拶に続いて各担当幹事により18年度事業及び決算報告、19年度事業及び予算案等が説明され、何れも原案通り満揚一致で可決承認されました。続いて、懇親会に移り、鈴木学長からは、内外の関係機関とも連携を取りながら「食の生産性向上と安全確保」の実現に向けて大学運営

の効率化、教育研究の活性化を図りながら順調に事業を展開している様子をお聞きし、大変心強く感じました。また湯口事務局長からは後援会へ賛助会員として一人でも多く参加して応援して頂きたい旨要請がありました。

さて、本会の昨年度総会以後のおもな事業としては、ここ数年来懸案の「会員＝名簿の発行」があります。

全国的な市町村合併が続き、それに伴い住所表示や郵便番号の変更が行われたため会員名簿の発行を合併の収まる本年度に先延ばしすると共に、会員名簿への住所等宛先不掲載希望者及び住所不明者は会員名簿から除外する方針を固め、東京都を中心にした関東6県の在住者と近県の加入希望者(賛助会員)計1,552名を掲載し、全員に名簿を配布しました。

また、総会開催通知、及びその出欠と会員登録継続の可否についての回答ハガキを同封し、本人の意思を直接確認する事としました。住所不明で配達不能が130通あったほか、総会開催時までに348名の方から回答を頂き、内273名が会員登録継続を希望され、他は病気、高齢、失業等の個人的な理由で一時退会を希望されています。今後はこの資料を集約し、会の活性化に向け対応を考えることにしていますので、回答の出し忘れた方は急いで投函にご協力をお願いします。

同窓会名簿は記載の正確さと共に、その取り扱いに特に注意を払わなければなりません。今後の発行については改めて対応を考える必要があるように思います。同窓会離れがよく聞かれる中であって、同窓会の仲間ほど利害関係抜きで純粋な人間関係のもてるお付き合いはそんな加に多くはないとつくづく考える昨今です。いつまでも大事にしたいと考えています。

## 同窓会兵庫県支部の現況

兵庫県支部事務局長

長谷川 隆一  
(昭和53獣医)

平成18年11月18日(土)神戸市内、その名も「北海道」というお店で、平成18年度支部総会を開催しました。総会には、遠路帯広から長澤理事にお越しいただき、お陰様で有意義で楽しい会とすることができました。長澤理事に改めてお礼申し上げます。

また、当日ご参加いただいた同窓生は14名と少なかったものの、平成15年畜産環境科学科卒の平田さん、平成17年獣医学科卒の山口さんと二人の若い女性を加え、華やかな総会となりました。

しかし、当日俵会長からは、「事務局はもっと多くの同窓生、特に若い同窓生を集めろ」ときつく言われております。本年も秋に支部総会を開催したいと考えておりますので、兵庫県関係の同窓生の方はご出席をお

願います。また、新たに赴任で兵庫県へ来られた方は事務局までご連絡ください。



#### 【写真解説】

上段左から S41年獣医 横幕、S19年獣専 高木、S23年酪専 山田、S55年工学増田、S43年獣医 倉橋、S56年獣医 福島、S56年化学 赤山、S37年獣医 俵  
下段左から H15年環科 平田、H 3年草地 前、H17年獣医 山口、S54年工学 桑野、長澤理事、S60年獣医 岡、53年獣医 長谷川

## 帯広畜産大学同窓会岡山県支部 誕生

岡山県支部長

進 藤 省 一 郎  
(昭和36酪農)

陽春の候、あっと云う間に初夏の感じの岡山県であります。昨年06年8月19日、母校より鈴木直義学長と湯口事務局長をお迎えして、支部設立総会と懇親会を行いました。

学長より、世界に通用する専門職業人の養成、個性輝く単科大学になるお話を聴き、嬉しくなりました。湯口事務局長から、国立大学法人の実状と運営が経済的に困窮するなどのご説明と支援願いのお話があって、総会が進行しました。応援参加された深田泰三九州支部会長、岡様、高木様、森田様、新宮安雄・島根県支部長、金谷一夫大阪支部長、甘利様など各位の豪華応援団に押されての船出となり、また現役の畜大生1名の参加も得ました。これは畜大事務局に現役学生の参加を要請したためでありました。今後も岡山県支部は現役の学生の参加を呼びかけて行く所存です。後援会員になるだけでなく、後輩の面倒を見れることも視野に入れようではないかとの決意であります。したがって、他にも何か貢献出来るようなことはないかと注視しているところです。企業にあっては重要なポストで活躍している優秀な後輩がたくさんいます。岡山大学に教員として在職中の方が3名もいると伺って、とても心強く、嬉しい気持ちになりました。今後は、ご家族の自慢話や畜大関連の夢のある話が交叉するような支部の育てたいと切望しております。

大学への経済的な支援にでもなればと思ひ、受験生の増加も期待して、近隣の高校へ畜大受験の勧めに行ってきました。ご対応頂いた進学指導の教師の方から、本学の生徒では荷が重過ぎるとのお話でしたが、受験をお勧め頂けるとの嬉しいお答えを頂いてきました。荷が重いとは、畜大は然程レベルが高くなったものかと驚いております。企業では営業部で活躍していましたので、今後は畜大の営業部としてでも受験を勧めて多方面を廻ってみようと考えております。

私は支部長を拝命しましたが、実に名ばかりの存在かと怖れております。これも一重に、事務局に大島祥裕殿と山崎修二殿がいてくれて、何が起きても充分に対処出来る優秀な事務局のお陰と感謝しております。よって、何事でもご連絡頂けましたら、事務局が処理致します。今後は、先輩各支部の応援を頂きながらじっくりと育ち、将来は必ずや各位に安心して見守って頂けるような支部になりたいと考えております。現在、本支部は帯広畜産大学卒業生総勢38名で構築しております。全員が帯広畜産大学卒業を誇りにして、未来を見つめて行きます。誉れあれ、我らが母校と岡山支部に。

## ブラジルからのお便り

ブラジル支部長

新 井 重 孝  
(昭和37酪農)

日本ではいよいよ夏の到来を感じさせる季節のことと思いますが、当地では冬に入るところで、所によっては-4℃まで記録しています。小生の住む所でも現在の最低気温が8℃です。

このように季節が正反対の所に住んでおりますと、日本への便りをする段に、まずは季節の違いをお話しせずにはおれません。当支部では例年この農閑期の時期(7~8月)に家族と同伴の同窓会を開催しており、今年で30回目を迎えます。家族連れで一泊二日の同窓会ですので、赤子から年寄まで入り交じり、家族同士の付き合いになり、和気あいあいの集いであることが、かくも長続きする秘訣なのかも知れません。

ブラジル支部はブラジル全土という広大な範囲を対象としているため、会員の中には2,200kmも移動しての参加となりますが、毎回のよう高い参加率を誇っています。しかし、この会も日本社会のように少子(新入会員の減少)高齢化の心配をしなければならないので、この火を消さないためにも新人が一人でも多く、かつできるだけ早く加わってくれることを心待ちにしているところです。

昨年一月末には、この恒例の同窓会の他に臨時の会として会員井田義朗氏(昭和28年酪農卒)の農場を見学する機会を得ました。氏の農場は当地の日系新聞にも

取り上げられた如く、実に見事なものです。1,800ヘクタールの平坦で肥沃な農地一面に大豆が栽培され、私達が訪問した丁度その時に収穫が始まっており、2台の大型コンバインが唸りを上げているところでした。サンパウロよりこの農場まで2,200kmもあるため全員飛行機での参加となりましたが、とても愉しく有意義な同窓会となりました。

なお、当支部の現在の会員数は15名で、最古参が昭和28年卒で最年少が昭和63年卒という構成になっております。

末筆になりましたが、世界各地でご活躍の帯広畜産大学同窓生各位に、遥か日本の裏側のブラジルよりエールをお送り致します。誉れ高き若人よ、来たれ更なる活躍の場ブラジルへ。

## 島根支部の支部長交代のお知らせ

島根支部事務局

川津章弘

(昭和60生産)

支部長が乗本吉郎(昭和22獣医畜産)氏から久保田政男(昭和32獣医)氏へ変更になりました。

## 訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。[敬称略]

亀尾義晴 (S18高等 獣医)	市岡英二 (S25農専・酪農)
石沢友男 (S18高等 獣医)	時岡祐三 (S25農専・酪農)
宗宮清一 (S19獣医畜産)	田中善治 (S25農専・農学)
高橋弘 (S20獣医畜産)	吉村澄雄 (S26農専・酪農)
早川薫 (S20獣医畜産)	戸井博之 (S26農専・農学)
村田不二夫 (S20獣医畜産)	粟井貢 (S28酪農)
中出時人 (S20獣医畜産)	前田久美雄 (S30獣医)
難波直樹 (S20獣医畜産)	竹縄馨 (S30獣医)
野村稔 (S20獣医畜産)	林昌利 (S30獣医)
菅原素行 (S22農専・獣医)	山崎正隆 (S30酪農)
刀根保二 (S22農専・獣医)	福井淳 (S31総農)
澤田穰 (S22農専・獣医)	酒谷俊弘 (S32獣医)
吉田正 (S23農専・獣医)	大嶋聖氏 (S32酪農)
山梨豊 (S23農専・獣医)	川上享 (S33総農)
小山隆司 (S23農専・獣医)	中村悟 (S36獣医)
小林茂 (S23農専・獣医)	千葉検事 (S36酪農)
浅井澄 (S23農専・獣医)	鎌田征子 (S41酪農、旧姓富所)
茂木一重 (S23農専・獣医)	栗原栄一 (S42獣医)
漆戸英男 (S23農専・農芸)	若杉毅 (S42農化)
小田原要四蔵 (S24農専・農芸)	長則夫 (S51獣医)
大賀乙寿 (S24農専・酪農)	北村一弥 (S56農化)
大居清作 (S24農専・酪農)	本田邦夫 (S61草地)
高野茂 (S25農専・農芸)	

※2006年9月から2007年現在までに、本部事務局にご連絡をいただきました。

### 総会および懇親会のご案内

事務局庶務

辻 修

(昭和53農工)

平成19年 9月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会長

大石 和也

平成19年度の帯広畜産大学同窓会総会と懇親会を下記の要領で開催いたします。会員各位のご出席をお願い申し上げます。

#### 記

日時：平成19年10月13日（土曜日）午前11時より

場所：農協連ビル5階 大会議室  
（帯広市西3条南7丁目）

- 議題：1) 平成18年度事業報告  
2) 平成18年度会計報告  
3) 平成18年度会計監査報告  
4) 役員改選  
5) 平成19年度事業計画  
6) 平成19年度予算案  
7) その他

### 懇 親 会

日時：平成19年10月13日（土曜日）総会終了後

場所：農協連ビル5階 大会議室

会費：4,000円

なお、大変恐縮ですが、総会、懇親会へご出席をいただける方のみ、同封のハガキに所定の事項をご記入の上、10月1日（月曜日）までに必着でご投函下さい。これも経費節減のためとご理解いただければ幸いです。不明な点は事務局にお問い合わせ下さい。

以上

- 平成18年10月19日 学士編入学試験合格者、第3年次編入学合格者へ協賛金納入願いを発送
- 12月5日 平成18年版同窓会名簿の発送
- 12月9日 第1回役員会及び忘年会開催
- 12月14日 推薦入学合格者、別科推薦入学合格者、大学院修士課程第2次募集合格者、外国人留学生特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
- 平成19年2月5日 大学院修士課程第2次募集一般選抜・社会人特別選抜合格者、大学院博士後期課程外国人留学生特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
- 2月20日 大学院博士後期課程一般選抜・社会人特別選抜合格者、大学院修士課程国際協力特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
- 3月7日 私費外国人留学生特別選抜合格者、一般選抜前期日程合格者、別科一般選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
- 3月中旬 卒業及び修了予定者に終身会費納入願いを配布
- 3月19日 学内役員会
- 3月20日 卒業式会長祝辞
- 3月20日 一般選抜後期日程合格者へ協賛金納入願いを発送
- 3月28日 一般選抜追加合格者へ協賛金納入願いを発送
- 7月14日 第2回役員会及び代議員会
- 9月10日 同窓会報の発送

# 平成17年度会計報告 帯広畜産大学同窓会平成17年度決算報告（平成18年9月30日）

（平成17年10月1日～平成18年9月30日）

## 【通常会計】

### 収入の部

項目	H17予算	H17決算	増減	備考
前年度繰越金	14,181,331	14,181,331	0	H16年度より
名簿販売	600,000	361,000	△ 239,000	3,000円×120部、未納分の1,000円
終身会費、協賛金	4,000,000	4,870,000	870,000	協賛・終身20,000円×242名、10,000円×3名
雑収入	50,000	119,094	69,094	寄付、利子、祝賀会費、広告料
特別会計から	0	0	0	
合計	18,831,331	19,531,425	700,094	

### 支出の部

項目	H17予算	H17決算	増減	備考
印刷代	700,000	0	△ 700,000	次年度支払い（H18年10月）
大学後援経費	500,000	500,000	0	後援会へ100,000円、大学へ200,000円×2
通信、郵送料	900,000	730,776	△ 169,224	受取人払い、役員会等連絡
人件費	700,000	340,880	△ 359,120	名簿整理等アルバイト代
事務費	100,000	106,927	6,927	事務用品、コピー代他
会議費	200,000	44,400	△ 155,600	役員会弁当代
交通費	100,000	192,400	△ 92,400	役員旅費、千葉大学へ
役員手当	180,000	180,000	0	10,000円（1年分）×18名
記念品代	180,000	202,860	22,860	キーホルダー840円×230個
雑費	150,000	161,673	11,673	振込手数料42,047円他
予備費	5,121,331	8,296,809	3,175,478	平成18年度へ繰越
特別会計へ	10,000,000	8,774,700	△ 1,225,300	
合計	18,831,331	19,531,425	700,094	

## 【特別会計】

### 収入の部

項目	H17予算	H17決算	増減	備考
前年度繰越金	11,225,300	11,225,300	0	
通常会計から	10,000,000	8,774,700	△ 1,225,300	
合計	21,225,300	20,000,000	△ 1,225,300	

### 支出の部



項目	H17予算	H17決算	増減	備考
通常会計へ	0	0	0	
合計	0	0	0	

## 平成17年度監査報告（平成17年10月1日～平成18年9月30日）

帯広畜産大学同窓会の上記期間の監査を実施したところ、適切に処理されていることを認めます。

平成18年10月13日

監事

松田清明   
山田純三 



# 帯広畜産大学同窓会平成18年度予算

(平成18年10月1日～平成19年9月30日)

## 【通常会計】

### 収入の部

項 目	H17予算	H17決算	H18年度予算	増 減	備 考
前年度繰越金	14,181,331	14,181,331	8,296,809	△ 5,884,522	H17年度より
名簿販売	600,000	361,000	600,000	239,000	3,000円×200部
終身会費、協賛金	4,000,000	4,870,000	4,000,000	△ 870,000	協賛+終身20,000円×200名
雑収入	50,000	119,094	50,000	△ 69,094	寄付、利子
特別会計から	0	0	0	0	
合 計	18,831,331	19,531,425	12,946,809	△ 6,584,616	

### 支出の部

項 目	H17予算	H17決算	H18年度予算	増 減	備 考
印刷代	700,000	0	4,000,000	4,000,000	会報印刷、名簿等印刷
大学後援経費	500,000	500,000	300,000	△ 200,000	後援会へ100,000円、大学へ200,000円
通信、郵送料	900,000	730,776	1,000,000	269,224	名簿、会報の発送、料金受取人払ほか
人件費	700,000	340,880	700,000	359,120	名簿整理等アルバイト代
事務費	100,000	106,927	100,000	△ 6,927	事務用品、コピー代他
会議費	200,000	44,400	100,000	55,600	事務局会議、役員会ほか
交通費	100,000	192,400	100,000	△ 92,400	役員旅費
役員手当	180,000	180,000	180,000	0	10,000円（1年分）×18名
記念品代	180,000	202,860	200,000	△ 2,860	キーホルダー
雑費	150,000	161,673	100,000	△ 61,673	振込手数料、弔電代他
予備費	5,121,331	8,296,809	6,166,809	△ 2,130,000	次年度繰越
特別会計へ	10,000,000	8,774,700	0	△ 8,774,700	
合 計	18,831,331	19,531,425	12,946,809	△ 6,584,616	

## 【特別会計】

### 収入の部

項 目	H17予算	H17決算	H18年度予算	増 減	備 考
前年度繰越金	11,225,300	11,225,300	20,000,000	8,774,700	
通常会計から	10,000,000	8,774,700	0	△ 10,000,000	
合 計	21,225,300	20,000,000	20,000,000	△ 1,225,000	

### 支出の部

項 目	H17予算	H17決算	H18年度予算	増 減	備 考
通常会計へ	0	0	0	0	
合 計	0	0	0	0	

## 同窓会名簿担当からのお願いとお知らせ

名簿担当

岸 本 正  
(昭和54農工)

最新の同窓会名簿は、平成18年11月に発行しました。皆様のご協力で御礼申し上げます。名簿は、隔年発行なので、平成20年11月まではこの名簿を1冊3,000円で配布しています。ご購入希望の方は、同窓会事務局(E-mail : dousou@obihiro.ac.jp、Tel/Fax0155-49-5996)へご連絡下さい。

名簿の管理は、毎年発行する同窓会報の発送の際に住所変更届を同封し、また、名簿原稿を学内各研究室や名簿委員にチェックしてもらおう等して、訂正作業を行っています。それでも不明者の数は減らず、名簿の巻末にたくさんの不明者一覧を記載しています。

不明者の中に消息をご存じの方がいましたら、いつでも結構ですので、事務局(E-mail : dousou@obihiro.ac.jp、Tel/Fax0155-49-5996)、または名簿担当の岸本(E-mail : tksmt@obihiro.ac.jp、Fax0155-49-5522)、井上(ircpmi@obihiro.ac.jp、Fax0155-49-5643)までご連絡下さい。また、ご自身の住所・勤務先等に変更があるときも、ご連絡をよろしく願います。

名簿の協賛広告は、平成16年度版に引き続き平成18年度版でも、裏表紙とその前の頁だけになってしまいました。広告収入だけで名簿を発行している大学もあると聞いていますが、畜大同窓会会員各位も、自営者だけでなく、勤務している会社関係等も大いに活用していただきたく、宜しく願います。

同窓会名簿の発行については、プライバシーの保護をしっかりとやらざるをえなくなっています。データ入力は1台のパソコンで行い、印刷会社とのやりとりでも、外部にもれないようなシステムにしています。それでも、プライバシーを理由に、住所を知らせていただけない(不明者)、あるいは、不掲載を希望する人が増えています。せめて不明者は不掲載希望にさせていただいて、毎年発行される同窓会報は受け取れるようにしていただきたいと思えます。

次回の名簿発行は、平成20年11月末を予定しています。皆様からの住所変更届等の連絡もよろしく願います。

## 財団法人 帯広畜産大学 後援会賛助会員加入のお願い

財団法人帯広畜産大学後援会は、同窓生の皆様をはじめ帯広・十勝を中心とする企業、団体等からのご寄附を賜り、帯広畜産大学の教育研究活動、国際交流活動、学生への奨学援助等に対する助成を行っております。しかしながら、長期にわたる低金利により基本財産による利息収入が少なく、本財団の健全な運営並びに支援事業の拡充のためには、資金の恒常的な確保が必要となっております。

一昨年、同窓会会員の皆様には、本財団の賛助会員へのご加入について個別にお願いをさせていただきましたが、その結果、本年3月末現在236名の同窓生の方々にご加入いただいております。今回、同窓会事務局のご協力のもと、賛助会員の加入手続きに関する書類を同封させていただきました。同窓生の皆様におかれましては、このような状況をご理解いただき、母校発展のためになお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご加入いただいた方には、毎年7月頃に後援会助成事業の報告書及び帯広畜産大学概要を送付させていただきます。本財団の趣旨、賛助会員加入手続き等につきましてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせ願います。

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11番地  
帯広畜産大学事務局内  
財団法人帯広畜産大学後援会事務局  
TEL0155-49-5995 FAX0155-49-5259  
E-mail : kouenkai@obihiro.ac.jp

## 事務局への連絡

同窓会支部活動のお知らせや役員の変更、会員の逝去など同窓会事務局に随時お知らせ下さい。同窓会のホームページへの掲載や支部会員宛のタックシール作りなどをお手伝いします。

なお、同窓会事務局は、月曜日と金曜日の午前10時から午後5時まで事務職員が直接、電話対応をいたします。火曜日から木曜日に関してはFAX対応となりますのでよろしくお願いいたします。また、緊急な場合などは、下記の事務局員にご連絡下さい。

- ・事務局電話およびFAX0155-49-5996  
対応事務職員 平方 英代
- ・緊急時対応電話 (0155-49)  
西村事務局長 : 5365 辻 庶務担当 : 5510  
小嶋庶務担当 : 5547 手塚会計担当 : 5417  
岸本名簿担当 : 5522

# 変貌する母校の姿



総合研究棟1号館



時計台



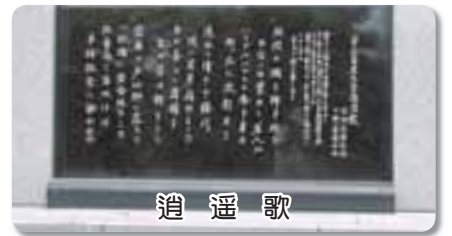
学内道標



中村善右衛門顕彰碑



原虫病研究センター憩いの場



逍遙歌



職員ラウンジ



原虫病研究センターPKホール



総合研究棟1号館2階廊下



ラウンジ内部



家畜病院全景



学務課



生協外観



ギフトセット



白樺並木

# 畜大オリジナル 全国宅配承ります。

帯広畜産大学生生活協同組合

## ☆おすすめセット☆

品番 B

オリジナルラベルワイン赤・白  
オリジナルチーズ2個セット



品番	商品名	商品代金税込
A	オリジナルラベルワイン赤／白 2本セット	¥2,410
B	オリジナルラベルワイン赤／白 2本チーズ2個セット	¥3,670
C	オリジナルラベルワイン白／清見 2本セット	¥3,869
D	オリジナルラベルワイン赤／白 清見3本セット	¥5,074
E	畜大オリジナルクッキー アソート（畜大牛乳入り）	¥1,200
F	畜大オリジナルクッキー 牛焼き印（畜大牛乳入り）	¥945
G	ゼオライトマスク5パック （鳥インフルエンザ予防マスク）	¥2,625

## <送料>

重量・サイズ	北海道	東北	関東甲信越・北陸	中部	関西	中国	四国	九州	沖縄
2kg（60cm×60cmサイズ）	¥640	¥950	¥1,160	¥1,160	¥1,370	¥1,480	¥1,580	¥1,690	¥1,790
5kg（80cm×80cmサイズ）	¥850	¥1,160	¥1,370	¥1,370	¥1,580	¥1,690	¥1,790	¥1,900	¥2,320
10kg（100cm×100cmサイズ）	¥1,060	¥1,370	¥1,580	¥1,580	¥1,790	¥1,900	¥2,000	¥2,110	¥2,840
15kg（120cm×120cmサイズ）	¥1,270	¥1,060	¥1,790	¥1,790	¥1,790	¥2,110	¥2,210	¥2,320	¥3,370
20kg（140cm×140cmサイズ）	¥1,480	¥1,270	¥2,000	¥2,000	¥2,000	¥2,320	¥2,420	¥2,530	¥3,890
25kg（160cm×160cmサイズ）	¥1,690	¥1,480	¥2,210	¥2,210	¥2,210	¥2,530	¥2,630	¥2,740	¥4,420

## クロネコヤマトコレクトサービス手数料

商品代金(税込)	1万円未満	1万円以上～3万円未満	3万円以上～10万円未満	10万円以上～30万円まで
代引手数料	¥315	¥420	¥630	¥1,050

**クール便** ※クール便はワイン2本+チーズセットを選んだ場合に送料に加算されます。

重量	～5kg	5kg～10kg	10kg～15kg
クール便代	¥300	¥400	¥700

FAXのご注文はこちらを使用してください

御住所	〒	商品記号	品名
電話番号	( )	数量	価格
ふりがな		のし 無し・あり お中元／お歳暮／その他 ( )	
名前			

<お支払い> お支払い方法は郵便振込・代引きがご利用になれます。

郵便振込の場合は入金確認後、代引きの場合はお申し込み後5営業日以内の発送となります。

料金は商品代金+送料（代引きの場合は手数料も含む）になります。ご注文後、お電話にてお知らせいたします。

Webのご注文はこちらのURLでお願いいたします。 <http://www.hokkaido.seikyou.ne.jp/obichiku/>

お問い合わせ先 〒080-0834 北海道帯広市稲田町西2線11 Tel: 0155-48-2284/Fax: 0155-48-2733